

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B1)

(11) 特許番号

特許第5827435号  
(P5827435)

(45) 発行日 平成27年12月2日 (2015. 12. 2)

(24) 登録日 平成27年10月23日 (2015. 10. 23)

(51) Int. Cl. F 1  
A 4 1 B 9/12 (2006. 01) A 4 1 B 9/12 C

請求項の数 1 (全 7 頁)

<p>(21) 出願番号 特願2015-89890 (P2015-89890) (22) 出願日 平成27年4月25日 (2015. 4. 25) 審査請求日 平成27年4月25日 (2015. 4. 25)  早期審査対象出願</p>	<p>(73) 特許権者 305021487 村上 剛康 神奈川県横浜市青葉区松風台23番地24 (72) 発明者 村上剛康 神奈川県横浜市青葉区松風台23番地24  審査官 北村 龍平</p>
--	---

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 背当て布

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

主として吸汗に用いる背当て布であり、該背当て布の上辺2箇所に引寄せ中継具を有し、該上辺の片方の先端に一方の端が取り付けられた紐が2個の該引寄せ中継具を通して、該上辺のもう一方の先端まで達して固定され、該紐が固定されている地点と該引寄せ中継具の立ち上り地点との間に復元性のある柔軟な芯が配置されており、該紐が引かれたとき該芯の先端は該引寄せ中継具に到達するまで撓み、該紐への引きが解除されたとき該芯は直線状態に復帰することを特徴とする、背当て布。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

背当て布に関する

【背景技術】

【0002】

特許文献1によると、汗による下着の濡れに対応するため紐で首から垂らして汗を吸い取らせる作用がある点において、本発明と類似する。

【0003】

特許文献1では、吸湿布袋に紐が繋がっている。一方、本発明は首まわりに置かれる紐が繋がっている背当て布は、引寄せ中継具を備え、ずれに対応する修復機構を有している。そのため特許文献1と本発明は、態様、機能において異なる。

## 【0004】

特許文献2によると、発汗によるシャツの濡れを布を用いて防止し、頭部を通過させる方法で着脱する点において、本発明と類似する。

## 【0005】

特許文献2では、布製のタオル本体に頭部を通過させる孔を設けている。一方、本発明は首まわりに置かれる紐が繋がっている背当て布は、引寄せ中継具を備え、ずれに対応する修復機構を有している。そのため特許文献2と本発明は、態様、機能において異なる。

## 【0006】

特許文献3によると、背中の発汗と衣類の濡れに対応する背当ての布であり、頭から外して上方へ引き出す方法において、本発明と類似する。

10

## 【0007】

特許文献3では、首周り用タオルが背当て用タオルと縫合されている。一方、本発明は首まわりに置かれる紐が繋がっている背当て布は、引寄せ中継具を備え、ずれに対応する修復機構を有している。そのため特許文献3と本発明は、態様、機能において異なる。

## 【0008】

特許文献4によると、汗とり用下着であり、上に着た衣服を脱ぐことなく脱ぐことができる点において、本発明と類似する。

## 【0009】

特許文献4では、右肩対応部と左肩対応部が背対応部に連結形成されている。一方、本発明は首まわりに置かれる紐が繋がっている背当て布は引寄せ中継具を備え、ずれに対応する修復機構を有している。そのため特許文献4と本発明は、態様、機能において異なる。

20

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0010】

【特許文献1】実開平6-70695公報(第2頁、第3頁)

【特許文献2】特開平11-285455公報(第2頁、第3頁)

【特許文献3】特開2006-102451公報(第2頁、第4頁)

【特許文献4】実用新案登録3123386号公報(第3頁、第10頁)

30

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0011】

特に夏の日中に外出すると、発汗により下着を濡らすことがあり不快である。そのままの状態では冷房の効いた施設や電車などに入ると、濡れた下着が冷やされて健康を害することもある。かかる事態を回避するために下着を脱ぐなどでできればよいが、外出時に実行することは容易ではない。また上半身の前面の胸部であれば首もとから手を入れて汗を拭うことが可能であるが、着衣のままでは背中に対応するすべがない。

## 【0012】

そのため事前に背中に布を当てておいて、汗をかいたときにはそれを襟首から引き抜き取れば効果があるが、下着と背中の間に吸汗用の布を当てることは一人で行うには困難である。

40

## 【0013】

例え手助けされて布を背中に当てることのできたとしても、背中に当てられた布は容易にずれ、動いたときには、自然に落下してしまう。そのために背中を全面的に吸汗することができなくなることがある。

## 【0014】

また、背中で生じたずれを着衣のまま修復することは困難である。

## 【0015】

50

本発明は、上記課題を一括して解決できる背当て布を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0016】

上記課題を解決するために、請求項1の発明は、主として吸汗に用いる背当て布であり、該背当て布の上辺2箇所に引寄せ中継具を有し、該上辺の片方の先端に一方の端が取り付けられた紐が2個の該引寄せ中継具を通して、該上辺のもう一方の先端まで達して固定され、該紐が固定されている地点と該引寄せ中継具の立ち上り地点との間に復元性のある柔軟な芯が配置されており、該紐が引かれたとき該芯の先端は該引寄せ中継具に到達するまで撓み、該紐への引きが解除されたとき該芯は直線状態に復帰することを要旨とする。

【発明の効果】

10

【0017】

本発明は、背当て布を自分ひとりで着装することができる。

【0018】

本発明は、背当て布が落下することを防止ができる。

【0019】

本発明は、ずれに対応する修復機構により背当て布を全面的に展開することができる。よって、背当て布を着装するときや、背当て布が後方ないし左右にずれたり、あるいは背中の中央へ収斂するなどして背中を全面的にカバーできない状態になったときに、上着や下着を身につけた状態でも修復することができる。

【図面の簡単な説明】

20

【0020】

【図1】本発明に係り、背当て布の一例を示す正面図である。

【図2】本発明に係り、背当て布の実施状態（紐を引いた状態）を示す上面図である。

【図3】本発明に係り、背当て布の実施状態（紐を緩めた状態）を示す上面図である。

【発明を実施するための形態】

【0021】

以下、本発明について図面を参照して詳細に説明する。なお、この実施の形態によりこの発明が限定されるものではない。

【0022】

図1は、背当て布を示す正面図である。紐40が背当て布10の上辺11の左右の先端12に引寄せ中継具20を通して繋がられている。芯30は上辺11で紐40が固定されている先端12と引寄せ中継具20の立ち上り地点の間に配置されている。

30

【0023】

図2は、背当て布の実施状態（紐を引いた状態）を示す上面図である。背当て布10を着装するときや、背当て布10が後方ないし左右にずれていたとき、紐40が上半身60の前方へ引かれた状態を示している。そのとき第一の修復として、背当て布10の上辺11は、引寄せ中継具20を介して首50の後部に接触するまで引寄せられる。同時に第二の修復として、柔軟な芯30は引寄せ中継具20の前部と後部の間で引き絞られ、屈曲した状態で、背当て布10の先端12を中継具20まで引寄せられている。

40

【0024】

図3は、背当て布の実施状態（紐を緩めた状態）を示す上面図である。紐40が緩められたことにより復元性のある芯30は直線状に伸展した状態を示している。紐40が緩められたとき、第三の修復として、引き寄せられた先端12が芯30に伴われて左右に開くことで、両肩の上で広がった背当て布10は広く背中をカバーする。

【0025】

図2および図3が示すように、背当て布10の着装やずれの修復にかかわる操作は、紐40を首もとから前方へ引いて戻せば完了する。そのため、上着や下着を身につけた状態で操作ができる。尚、背当て布10取り去るときは、紐40を首50から外して、上辺11をつかんで襟首から抜き取ることになる。

50

**【産業上の利用可能性】****【0026】**

本発明は簡素な仕組みで背中中の汗を吸収し、着衣の状態が必要操作を実施できて便利なため、広く利用される可能性がある。

**【符号の説明】****【0027】**

10 背当て布

11 上辺

12 先端

20 引寄せ中継具

30 芯

40 紐

50 首

60 上半身

10

**【要約】**

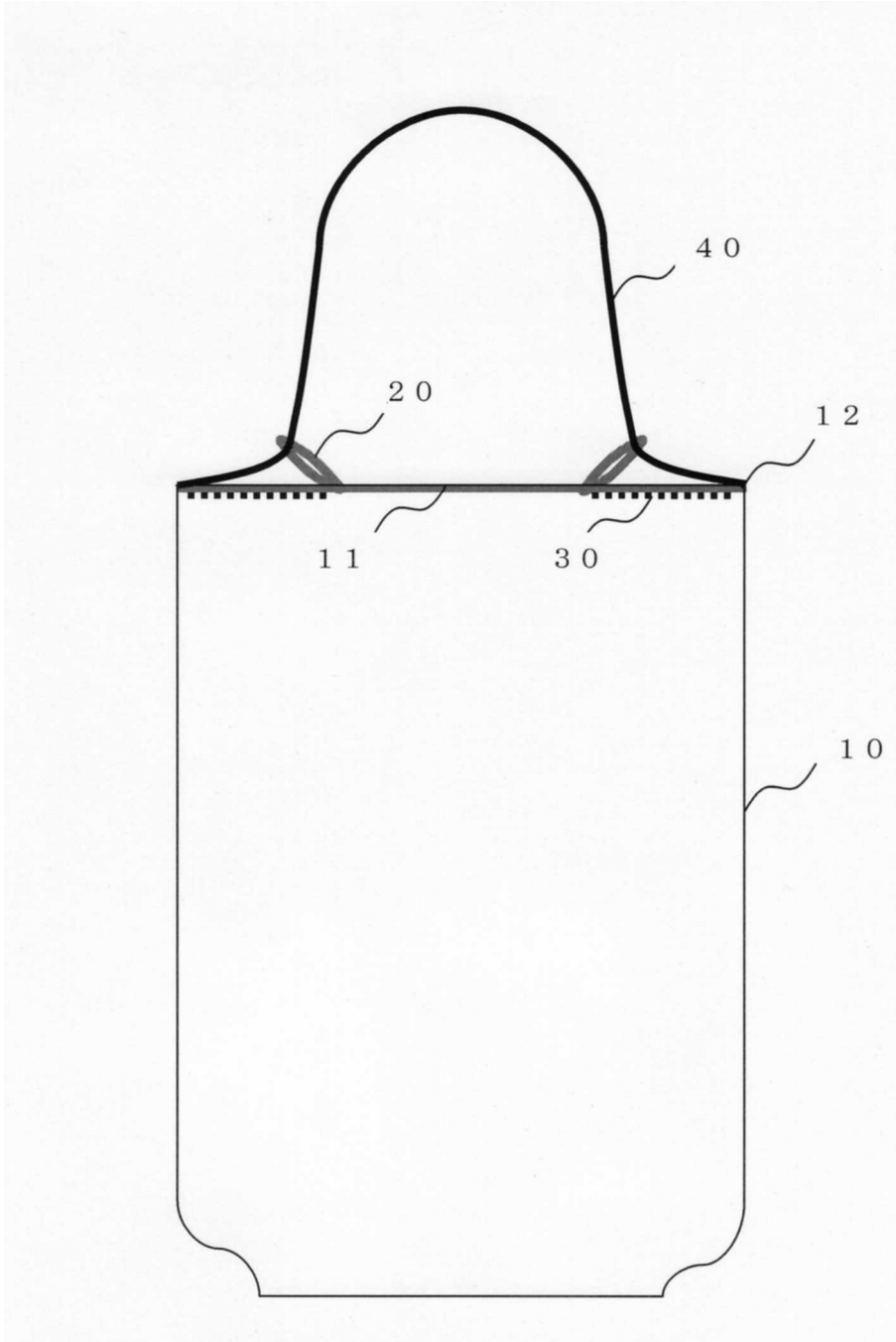
**【課題】**発汗により背中の中着を濡らすことを回避するために、簡素で便利な背当て布を実現すること。

**【解決手段】**自分ひとりで着装でき、落下を防止し、ずれが発生したとき、着衣の状態容易に修復できる背当て布を提供する。

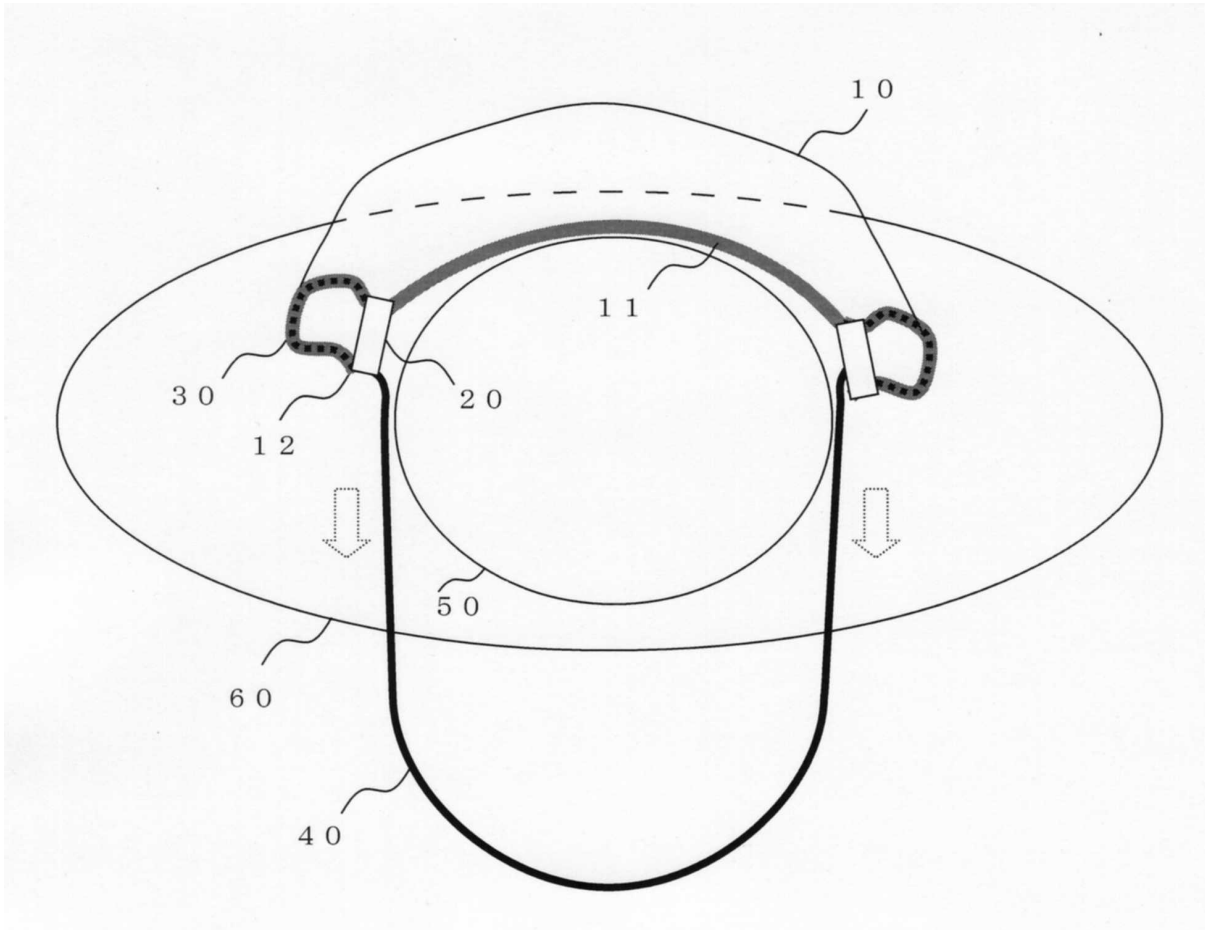
**【選択図】**図1

20

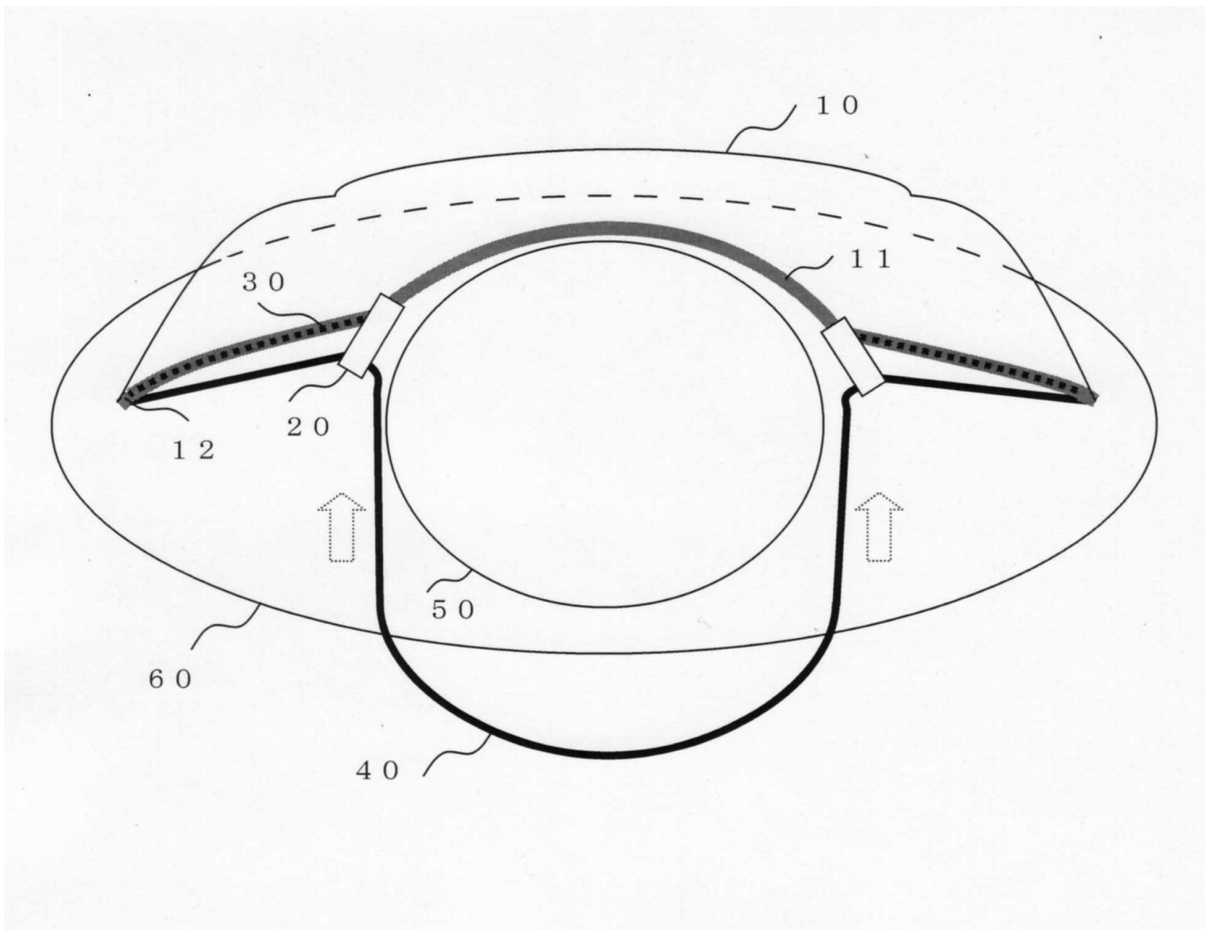
【図1】



【図2】



【図3】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2006-045750(JP,A)  
 实用新案登録第3181002(JP,Y2)  
 实用新案登録第3017127(JP,Y2)  
 实用新案登録第3061597(JP,Y2)  
 实用新案登録第3015980(JP,Y2)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A41B 9/00 - 9/16  
A41D 13/04  
A61F 13/00  
13/15 - 13/84